

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	小野 岳人
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	講師
在籍年	1 年

教育の責任

2024 年度は、創薬科学には科目責任者として、動物薬理学実習、獣医実験動物学実習、獣医療面接実習、獣医毒性学実習、動物毒性学実習については補助者として参画した。

創薬科学はアドバンスト科目に相当し、扱う内容は国家試験対策の枠組みによる制限を受けない。そこで、国家試験に囚われることなく、幅広い知識を修養しそれを自在に展開できる獣医師を育成することを責任と考えている。

補助者として参画する実習に関しては、自身の有する知識と技術を伝授することにより、学生の当該科目に対する興味や理解が深まるよう働きかけること、並びに実習を安全かつ円滑に進行させることを責任と考えている。

教育の理念

人生も折り返し地点を過ぎ、自身が学ぶだけでなく学んだことを後進に伝えることが重要であると考えて教育に臨んでいる。

獣医学部では医療系の国家資格の取得を念頭に置いた教育が必要である。しかしながら、国家試験は獣医学部生の最低限の到達目標であり、ゴールであってはならないと考えている。本学部のアドバンスト科目は私の教育理念に合致したものであり、アドバンスト科目に属する創薬科学を担当するにあたってはその理念に従い国家試験の出題範囲に囚われずに授業計画を構築した。

補助者として参画する実習に関しては、上記の理念を主張しすぎると実習の進行に支障をきたす可能性があるので、学力や学習意欲の高い学生に限定してワンランク高いレベルの教育を行うこととした。

教育の方法・方針

創薬科学の講義に関しては、国家試験対策の講義で扱うチャンスの少ない一般教養、教科書に掲載されていない新しいサイエンスのトピック、人医療に関する事項、薬事行政や医薬品の時事問題などに触れることで、医薬品について広く深い知識を修養することを目指した。学期末の評価を試験にしまうと膨大な知識の暗記が必要となり学生の負担が大きく、新しい知識に触れることに忌避感を抱くことが懸念されたため、暗記の必要のないレポート課題とし、講義内容の理解度の確認を重視した。

補助者として参画する実習に関しては、学力や学習意欲が高く、余裕が有り余っている学生に対しては実習の範囲外の事項について指導したり、調査学習事項の提示を行った。

教育の成果

創薬科学に関しては、学期末レポートの最後に自由記載のアンケート欄を設けた。以下コメントを列挙する。「本課題を含め復習することで理解を深めることができました」「社会に出るに

あたって必要なことも教えていただき」「ヒトの医薬品だけでなく獣医の医薬品についても述べられていて興味深い授業であった」「創薬の複雑なプロセスや医薬品開発に必要な知識を体系的に学ぶことができました」「創薬の分野での就職の参考にもなりました」「授業内容はどれも新鮮で面白かった」「リアルな裏話が面白かった」「内容が豊富だった」「資料が大変わかりやすく体系的に作られており」「スライドが細かく丁寧に書かれているため、見返した時や勉強するときに分かりやすくていい」「授業資料は理路整然と作られており、理解しやすかった」「色使いは非常に鮮やかでわかりやすい」「英語で説明する課題では、英語の勉強にもなり有意義であった」「講義内で専門用語や英語にも触れることができ、これからの学びに活かせる基礎を得られたと実感」などの評価を頂けた。一方、「講義スライド一枚に対する文字の量が多い」という指摘があり、次年度以降改善する必要が感じられた。

補助者として参画する実習に関しては、上記の方法で指導を行っていたところ、自身が担当する班以外の学生からも質問を受けることがあった。グループワーク実習においては、意欲の高い学生に対して調査項目を積極的に提示することでディスカッションが活性化した。その結果、成果物のクオリティが高まり、当該グループの学生は実習責任者より高い評価を得ていた。また、実習以外にも研究や勉強の方法を質問されるなど、ライフサイエンスへの興味や勉強への意欲を引き出すことに成功したと考えている。

今後の目標

自身が担当する創薬科学については、アンケートで「講義スライド一枚に対する文字の量が多い」という指摘があったため、情報量の調節を行い、学習意欲がある学生がついていけないという事態にならないように注意しようとする。ポジティブに評価された部分に関しては今後も同様のアプローチで取り組む予定である。

今年度は自身の理念に合致したアドバンスト科目だけを担当していたが、国家試験レベル以下の事柄を中心に扱う科目を担当した際には自身の理念と科目の意義との間でバランスをとる必要がある。今の段階から折り合いの付け方を考えて備えようと思う。

補助者として参画する実習については、引き続き実習の進行を妨げないよう細心の注意を払いながら余裕のある学生の能力や意欲をさらに伸ばすというスタンスで取り組む。

根拠資料

創薬科学 講義資料、学期末レポートのアンケート
獣医毒性学実習 成績評価